

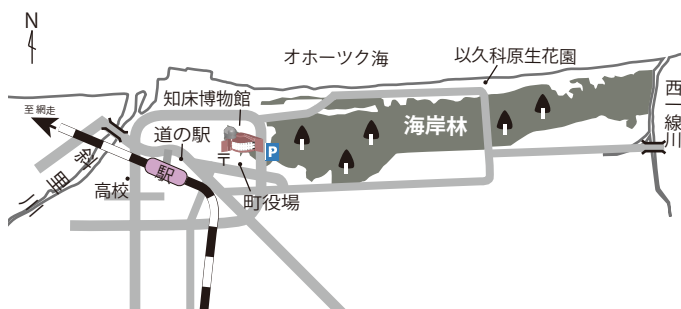
エゾクロテンはみんなで大移動？

私はよく「専門は何ですか?」と聞かれることがあります。アメリカミンクの分布を調べたり、カワウソの調査をしたりしてきましたし、最近ではウサギの調査をすることもあります。しかし、やはり1種類の動物だけ選ぶとするとエゾクロテンとなるでしょう。

エゾクロテンを見かけることは少ないですが、実はごく身近なところに生息しています。知床博物館やゆめホールのまわり、役場の裏、斜里神社の前など町の中心部に出てくることもあります。斜里の海岸林を冬に歩くと頻繁に足跡を見かけます。私は2008年頃から冬にこの海岸林を歩いて足跡の追跡や糞の採集をしてきました。足跡の調査をはじめてから、いったいこの林にはどれくらいのエゾクロテンがいるのか知りたいと思っていました。数を調べるといっても姿を見ることがさへ難しい動物です。生きたまま捕獲するのもたいへんです。一方、近年DNAの解析技術が進歩し、野生動物の糞に付着したDNAで個体識別ができるようになってきました。そこで海岸林で採集した糞のDNAを調べてもらうために、北大大学院理学研究科の増田隆一教授に協力をお願いしました。幸いなことに、当時、増田教授の研究室に所属していた永井朋子さんが中心となって解析を進めていただけになりました。あとは糞を集めるだけです。

2010年と2011年の冬に、毎月2回ずつ西一線川から知床博物館まで続く約5kmの森の中をスキーやかんじきで往復しながら足跡を探し、足跡の途中にある糞を採集しました。氷点下20℃を下回る朝には、まつ毛が凍って眼が開きにくいこともありました。一日歩いても一つも糞が見つからない日もありました。こうして糞を探したのですが、不思議な事に2010年には47個の糞が見つかったのに、2011年には足跡がずっと少なく、糞も12個しか見つかりませんでした。

集めた糞を北大で分析してもらった結果を見て驚きました。海岸林の調査地で2010年に回収した糞は21頭分のものでした。こんなに多くのエゾクロテンがこの場所を利用していたのです。ところが、2011年の糞はわずか5頭分しかなかったのです。



今回調査した海岸林

どうしてこのような事が起きたのでしょうか。どうやら2010年の冬に斜里の海岸林にいたエゾクロテンの多くが、2011年の冬には別の場所に移動したようです。積雪量もこの2年の間であまり違いがなく、なぜ移動してしまったのかは不明です。2010年には何か理由があって多くの個体が斜里の海岸林に集まっていたのでしょうか。2010年は博物館やゆめホールのまわりにクロテンが頻繁に出現した年でしたが、2011年にはそのようなことはありませんでした。海岸林に集まっていたクロテンの一部が博物館にまで現れてきたのでしょうか。彼らがどのくらいの距離をどのように移動しているのか、いつか明らかにしてみたいですね。

(村上隆広)



中標津町の温泉旅館で野鳥の給餌場所に現れたエゾクロテン
(2011年2月20日撮影)



交流記念館の玄関ひさしの上で見つかったエゾクロテンの足跡
(2010年1月29日撮影)

発行 知床博物館協力会 2014.12.26
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257
<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>